



博物館ニュース「SHŪ」

NO. 41

“SHU” Tamagawa University Education Museum News

2013年9月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待	2
新収資料紹介・ 資料をご寄贈いただきました	3
報告	4
学内連携の教育活動・ 質問です	5
開館カレンダー・ 利用案内	6

登天台山図（部分）

石川丈山画・賛 紙本墨画 掛軸装

123.7 × 28.7cm 17世紀中葉

石川丈山（1583 - 1672）は、徳川家康に仕えた譜代の家臣でした。1615年の大坂夏の陣で軍律に違反して蟄居を命じられると浪人になり、藤原惺窩に入門して儒学を学びました。一時他家に仕官しますが、1641年、京都郊外に凹凸窠（詩仙堂）を建てて隠棲し、生涯を学問、詩、書画の制作や作庭等に親しむ隠遁生活を送りました。

本図は丈山の自画像とみられ、牛の背に揺られて比叡山（天台山）に登る姿を描いています。「仰見四明山下翁 天台万丈在牛背 浪速立功豈伐功 華陽歸馬鉄衣脱」との漢詩が自賛され、転句と結句は、大坂と京都での出来事についての心情を、詠んだものです。

展覧会への招待

ミュージアム・コレクション展 2013 近世教育者の肖像

歴史上の人物は、それらの姿を伝える肖像の有無により、その人に対する理解や親しみにも似た感情に、大きな違いが出てきます。

江戸時代末期に輸入された写真術にその座を譲るまで、人物の姿は、絵画や彫刻によって残すほかありませんでした。肖像は主に故人を偲ぶため、遺族・子孫・弟子等の依頼により作られるものでしたが、本格的なものは、応分の時間・技術と費用を注ぎ込んで制作されたため、肖像が作られたのは、ごく限られた宗教家、高い身分、権力や財産を有する名のある人物が中心でした。そうした中で多くは武士階級にあった学者・思想家・著述家で、学塾を主宰し、時には有力者の側近にある存在でもあった江戸時代の教育者は、学問上の師として尊敬の対象とされ、肖像が作られることが少なからずありました。

当館では、江戸時代の教育者の姿を視覚的にとらえることができるものとして、肖像画・彫刻を収集してきました。美術史的な観点よりも、もっぱら教育史資料であることに重きを置いて収集したもので、無名の絵師等の作品であることも少なくありません。しかし、これらの教育者の肖像の多くは、いずれも尊敬すべき師の姿を追慕礼拝するため、あるいはその学統につらなる証として、十分な敬意の下に作られたものと思われます。

このたびのミュージアム・コレクション展は、当館で所蔵する江戸時代から近代にかけて制作された、近世の教育者の肖像を集めて展示します。本展では大きく、

1. 江戸時代の学問の世界において、礼拝の対象とされてきた像
2. 儒学、心学、国学、洋学など、様々な学問の学者・教育者の肖像
3. 近代の国定教科書や歴史掛図等に見る近世教育者の肖像

の3テーマで構成します。これらをご覧ください。ことで、日本史や古典の教科書に名前が出てきた近世の教育者が、どのような顔かたちをしていたかを知り、無味乾燥な印象であった人物を、より立体的にとらえていただけることでしょう。皆様のご来館をお待ちいたします。

(菅野和郎)



雨宮章廸画 譚園諸彦会譚図 18世紀後半か



中井藍江画 中井竹山像 1803年頃

- ◆会期 2013年11月4日(月)～12月13日(金)
 - ◆時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 入館無料
 - ◆休館日 11/12(火)・13(水)・17(日)・23(土・祝)・30(土)、12/1(日)
 - ◆学芸員によるギャラリートーク(予約不要)
- 2013年11月18日(月)、24日(日)、12月9日(月) いずれも13:30～14:30(展覧会場)

新収資料紹介

『ハチドリ科鳥類図譜』 第16分冊フォルダーおよび図版・解説



19世紀の英国人博物学者ジョン・グールドが制作した鳥類図譜は、石版画で黒の色を刷ったのち、手彩色で色づけされています。出来上がった図版はある程度の枚数が揃った時点で解説を添え、購入予約者のもとに送られました。購入者は送られてきた分冊がすべて揃ってから、各自で製本師に依頼して図譜の形態にしていたのです。

本資料は、グールドが鳥類図譜購入予約者に分冊の形で送った図版および解説の一部と、それらを収納していた2つ折りのフォルダーです。フォルダー表紙の絵は、『ハチドリ科鳥類図譜』第4巻のチャムネテリハチドリの図（上半分を使う）が銅版刷りで入れられています。また、表紙には「Price Three Guineas」という文字が入っています。ギニー（Guinea）は21シリングに値する英国の旧貨幣単位で、これにより分冊の価格を知ることができます。

ゴードン・サワーの研究によれば、グールドは1858年5月1日に『ハチドリ科鳥類図譜』の第15分冊を刊行し、同年9月1日に第16分冊を刊行しています。分冊のフォルダーは製本時にほとんど捨てられてしまうため、これと内容物が残っているのは珍しいことです。なお、当館では『イギリス鳥類図譜』第2分冊フォルダー（図版・解説なし）も同時に収集しました。

（柿崎博孝）

ジョン・グールド制作 57.1 × 39.2cm 1858年頃

分冊フォルダー：紙、銅版墨刷り 図版：石版手彩色 解説：石版墨刷り

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2013年1月～7月）

杉山 武敏	教育史関係資料	1点	黒萩 泰弘	同窓会報	2点
貴志 豊和	教育史関係資料	2点	森下 恭子	教育史関係資料	1点
正木 貞夫	同窓会報	1点	甲斐 正人	教育史関係資料	5点
首藤 元男	同窓会報	1点	剣持 尚子	教育史関係資料	21点
野間 輝一	同窓会報	1点	金松 和子	教育史関係資料	2点
波里 純次	鳥類写生図譜	4点	清藤 六郎 颯		2点

報 告

常設展示の一部更新

昨秋開催した特集展示「新教育運動の展開と玉川学園」の内容を承け、日本教育史の常設展示のうち、新教育運動、玉川学園史、創立者小原國芳に関するコーナーの展示を、一部更新しました。



企画展終了

昨年度の企画展「石に描かれた鳥たち—ジョン・グールドの鳥類図譜」は、2013年3月24日まで会期を延長し、好評のうちに終了することができました。会期中の延べ入館者数は、5211名でした。

映画フィルムのデジタル化

当館では、玉川学園開校期からの教育活動や、各種行事を記録した映画フィルムを所蔵しています。現在フィルムの保存処理と映像のデジタル化を進行中で、先日その第一陣が完成しました。デジタル化した映像は、将来的に館内公開のほか、教育活動や学校の広報、また学友会（同窓会）の集会の折などにも活用できるようにしたいと考えています。

全人教育研究センターとの連携

2013年度から、玉川学園設立理念の本質を見据え、時代の中でそれをどう具現化すべきかを探求し、「玉川の教育」の根幹が何であるかを見極めつつ、「教育の玉川」として世に教育上の提言を発していくために、教育学部に全人教育研究センターが設置されました。そこでは、全人教育の理論

的・実践的研究、創立者小原國芳の人物的研究、大正自由教育主義に関する研究等に取り組みますが、当館の学園史部門もこれに参画し、連携しながら事業を進めることにしています。

博物館実習

通信教育部「夏期スクーリングⅡ期」 23名
2013年8月10日～16日
通学課程「博物館実習（館務実習）」 49名
2013年8月5日～9月11日の間
4班各3日間

資料の貸し出し

・桑名市博物館（三重）「北斎・広重・国芳—浮世絵に見る東海道五十三次・桑名—」
(10/12～11/24)
「子供遊臈月のたわむれ」等 13点

人の動き

2013年4月1日付で小原芳明文学部教授（学長・理事長）が、引き続き館長事務取扱に任命されました（任期1年）。

また、同日付で近藤誠シニアスタッフ（嘱託職員）が、同窓会事務局より転入しました。

統計（2012年10月～2013年3月）

本館

開館日数 125日 入館者数 5273名

収集

〔資料〕 日本教育史 116件
芸術 4冊

〔図書〕 和書 155冊 洋書 0冊

〔定期刊行物〕 和雑誌 33冊
洋雑誌 13冊

分室

利用者 0名 資料提供 0件

収 集 玉川学園関係 80件

学内連携の教育活動 小学生のためのサマースクール

今年も7月24日から26日にかけて、当館の美術資料を利用した鑑賞活動が行われました。この催しは、夏休みを利用して開講される小学部のサマースクールの中の一つで、低学年児童の希望者に美術作品に親しんでもらう試みです。保護者も一緒に参加することができます。

小学校の美術科教員の指導のもと、参加者たちは「美術作品の一部」を集めたワークシートを手わたされ、「作品の一部」がどの作品に属しているか探すように指示されます。参加者はギャラリーの展示作品を熱心に観察しながら、その作品がどこにあるのか割り出していきます。

この催しのポイントは、「作品の一部を探しあてる」という具体的な活動を通して、子どもたちが主体的に美術作品を鑑賞する楽しさを発見するところにあります。また、子どもたちは「作品探し」と並んで、鑑賞した作品の印象を言葉で表現するように求められることもあります。初めは遠慮がちだった子どもたちも、指導教員の誘導により、積極的に自分の意見を語るようになります。彼らの発言は時に鋭く作品の本質に迫るものもあり、教



員や保護者が驚いてしまうことも少なくありません。

更に教員は子どもの発言を活かしながら、作品のテーマや材質、文化的背景の説明を交えることもあります。このサマースクールの対象が小学校1～2年生なので、あまり難しいことを説明するわけにはいきませんが、一枚の絵画に描かれた人物、衣装、風景描写などから作品の主題や時代背景にも目が向くように話していきます。

「本物の作品」との出会い体験は、「小学生の時の夏休みの思い出」として、きっと子どもたちの記憶のどこかに残ることでしょう。

(宇野慶)

質問です

Q. 博物館の用語で燻蒸とは何ですか？

A. 博物館には収集した資料を後の世代に伝えるという大切な役割があります。そのため、博物館は密閉した空間にガスを投入して、資料の痛みの原因となる害虫やカビの殺虫、殺菌を行っています。これが燻蒸と呼ばれる作業です。

燻蒸作業を行うためには特定の資格や技術が必要とされることから、当館では専門の業者に作業を依頼しています。燻蒸は危険なガスを投入するために、慎重を期して行わなければなりません。ガスが漏れないように目張りをしっかりと行います。また、中学校に併

設している当館では、安全面の配慮から生徒が休み中の年末年始に行っています。

燻蒸を行う前には、館内の環境調査が行われます。館内に様々なトラップ（市販のゴキブリ捕獲器のようなもの）を仕掛け、資料の大敵である害虫の侵入状況の調査等を行います。同時に館内の浮遊菌や塵埃の調査もしています。

最近では環境保全の立場から、薬剤だけに頼らずに総合的な有害生物管理の取り組み(Integrated Pest Management 総合的有害生物管理)も行われるようになっていきます。

(宇野慶)

2013年度下半期 開館カレンダー

2013年 10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2014年 1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

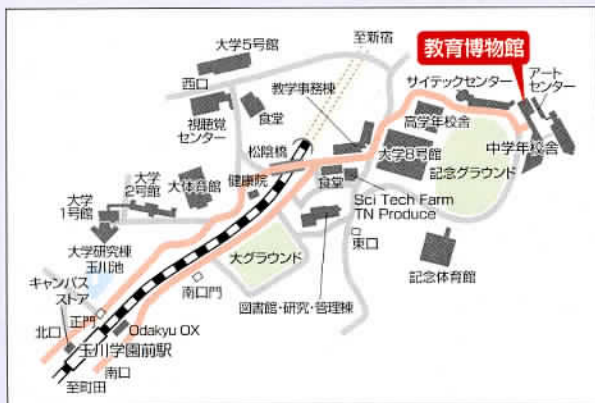
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

■ 11月4日(月)～12月13日(金) 企画展 ミュージアム・コレクション展2013 近世教育者の肖像

■ 休館日

■ 第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ 年末年始は館内環境整備のため、12月14日から1月13日まで休館します。
 ※ この予定は、電力事情、年間学事計画等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
 (日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料 無料

交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。

(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車で来館はご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHŪ No.41

2013年9月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。